

令和6年度 県立水戸第三高等学校自己評価表

目指す学校像		三高プライドを持ち、未来の社会を担うことができる人財を育成する学校。 ※三高プライド…三高スタンダード(これからの時代を生きる人間として「身につけさせたい5つの力」:知力・知識力、思考力・探究力、協働力、コミュニケーション力、自己実現力)を身につけ、何事にも主体的に取り組み、他者と共生できるしなやかな心。				
昨年度の成果と課題		本年度の重点項目		重点目標	達成状況	
<p>○筑波大学、茨城大学、県立医療大学など国立大学に26名、青山学院大学、法政大学、日本女子大学、東京音楽大学など私立大学にのべ278名、県立中央看護専門学校など公立専門学校に11名、県警事務など公務員に9名が合格した。今後も多様な進路希望を実現させるために、進路指導部と各学年が連携し生徒の自己実現に努める。</p> <p>○男子生徒数の積極的受け入れのための広報が実を結び、今年度も入学者数が増加した。今後も学校の活動を積極的に発信するなど、継続的な広報活動の充実を図り、本校志願者の数的・質的向上を図る。</p> <p>○部活動については、「文武両道」のもと、女子生徒はもとより男子生徒の部活動加入者を増やし、豊かな心と健やかな身体の育成、自主及び自立の精神の涵養に努める。</p> <p>○新教育課程完成年度に向け、学習習慣と学力の向上のために、学習指導の改善についてさらに研究を深め、生徒が学習に主体的に取り組む態度を育成する指導を充実する。また、探究型学習を取り入れた組織的な授業実践や評価の在り方について引き続き研究を深める。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、自ら考え、自ら探究する力を育む指導 ・大学や企業等との連携を進め、広い視野で物事を考える力を育む指導 	<ul style="list-style-type: none"> ①主体的に学習に取り組む態度の育成を目指し、自ら学ぶ姿勢を育む指導に努める。 ②校内研修を充実させ、授業改善の意識を高揚し授業力向上を図る。 ③生徒の進路希望を実現できるカリキュラムの検討を進める。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・高い志の育成を図り、主体的に自己の進路目標を設定させる指導 ・生徒が設定した進路目標を実現する指導 	<ul style="list-style-type: none"> ④生徒の学力に応じたきめ細かい進学課外の充実を図ることで、学習意欲を喚起し進路実現に結びつける。 ⑤進路だよりを定期的に発行し外部情報や本校の取り組みを丁寧に知らせることにより、進路意識の高揚を図る。 ⑥インターンシップや近隣教育機関と交流する機会を数多く設けるなど、地域との関わりを深めることにより望ましい職業観・勤労観を育む。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に良識ある行動ができる生徒を育む指導 ・社会人として守るべき基本的なルールやマナーについての指導を、全教職員が継続的に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ⑦基本的な生活習慣を確立させる。 ⑧校則・ルールの意義を理解して主体的に良識ある行動及び落ち着いた生活環境づくりができる生徒を育成するため、分掌・学年及び生徒会等と協働し、全教職員による継続した指導・支援を図る。内規・校則・ルール、指導手順等の整備・見直しを行い、新任者でも指導しやすい環境を整える。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で、特別活動や部活動に主体的に取り組ませる指導 ・特別活動や部活動を充実させ、個性を尊重し互いを高め合う集団づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨文武両道の実現に向け、学習と部活動の両立及び進路実現を可能にする環境を構築する。 ⑩部活動に主体的に取り組む姿勢を育み、各大会での上位入賞を目指す。 ⑪生徒が特別活動の意義を理解し、ホームルーム、生徒会活動、学校行事等の活性化に努める。特別活動においてキャリア・パスポートを活用する。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・男子生徒入学者数の増加に向けて、継続的な募集・広報活動の推進と展開 ・学校教育活動への理解と協力促進 	<ul style="list-style-type: none"> ⑫学校ホームページや学校案内等を活用し、本校の特色、取組み、成果等最新の学校情報を生徒、保護者、県民に積極的かつ適切に発信し、募集・広報活動を活性化する。 ⑬男子生徒入学者数増加に向けた広報リーフレットを作成し、近隣中学校や学習塾等への訪問や広報活動を展開する。 ⑭学校説明会、学校公開、体験レッスン等の機会を活用し、中学生、保護者、県民等に向けて、教育活動全般を説明するとともに、特色ある専門学科に特化した情報発信にも努め、専門教育への理解の深化を図る。 ⑮教育委員会ホームページの活用や報道機関への記事提供を積極的に行う。 ⑯学年通信や学級通信などを積極的に発行し、学校生活の状況を保護者に伝え、本校の教育活動への理解・協力を促す。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の働き方改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ⑰教員の働き方改革に向け意識改革並びに削減可能な業務の検討等を行い、昨年度より平均月超過勤務時間1時間以上の削減を目指す。 					
<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な授業改善の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ⑱生徒による授業評価で、「授業を通して分らなかつたことが分かるようになった」の項目が3ポイント以上を目指す。 ⑲生徒による授業評価において、教え方の工夫(ICT)の各項目が3ポイント以上を目指す。 ⑳生徒による授業評価において、「授業満足度」の各項目が3ポイント以上を目指す。 					
三つの方針		具体的目標		評価	総合評価	次年度への主な課題
三つの方針 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・三高プライドを持ち、未来の社会を担うことができる人財の育成。 ※「三高プライド」とは、三高スタンダードを身につけ、何事にも主体的に取り組み、他者と共生できるしなやかな心のこと。 ※「三高スタンダード」とは、これからの時代を生きる人間として「身につけさせたい5つの力」のこと。 ①知力・知識力 ②思考力・探究力 ③協働力 ④コミュニケーション力 ⑤自己実現力 		B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に取り組む機会の促進。 ・三高スタンダードの再確認。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントの充実。 ・創意工夫を生かした特色ある教育活動の推進。 ・学科の特徴を生かしたカリキュラム開発。 		B		<ul style="list-style-type: none"> ・評価について各教科で共通認識をもつ。 ・先を見通したカリキュラムマネジメントの充実。
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動、学校行事、生徒会活動や部活動などに、他者と協働して主体的に取り組む生徒。 ・自分の進路実現を目指し、継続的に努力する生徒。 ・学科の特性に応じた教育活動に対して、積極的に取り組む生徒。 		B		<ul style="list-style-type: none"> ・各学科における明確な目標設定と到達度の数値化。 ・学校の目標と生徒の実態の乖離の解消。
具体的目標		具体的方策		評価	総合評価	次年度への主な課題
教科指導		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図るために週末課題等を利用し、家庭学習時間の確保を図る。 ・学習の個別最適化を図り、主体的な学習態度を育成するために、学習支援動画及び付属教材の活用を促進する。 		B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現を見通して、教科指導の内容を可能な限り一致させる。 ・生徒が主体的に学びに参加出来る授業デザインの。 ・調査や模試の振り返りの時間確保。 ・ICT機器の積極的な活用のを設け、生徒自らが考える授業展開。 ・教科会の定期的な実施により学年横断的な情報の共有。 ・各教科ごとに3年間のロードマップの作成。
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業への主体的な取り組み、疑問点の解消、将来の目標を見据えた学習計画の実践を促す。 		B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・各教科・科目で身につけた基礎的な知識・技能を教科横断的に活用する学びをとおして、思考力・探究力の向上を図る。 		B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を図った授業作りを工夫する。 		B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・インタラクティブフォーラムやプリティッシュヒルズでの英語研修など国際理解に関する活動に積極的に参加する。 		B		
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら目標を立て、目標を達成するために互いに努力し高め合う生徒を育成する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・英語検定・家庭技術検定・各種コンクール等への積極的な参加を促す。 ・ICT機器を積極的に活用した学びの場を設け、生徒自らが考える(学ぶ)活動を展開する。 		B		
教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力把握と教材研究に基づいた、対話的・主体的な言語活動を展開するよう努める。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト等を用いた基礎学力の定着を促す指導の継続。 ・生徒の学習効率を考えた課題の検討。ICTを利用した課題等の工夫が必要。 ・学校設定科目への取り組みとその評価。 ・指導と観点別評価の一体化。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト等を利用し、共通テストに繋がる基礎学力の定着を図る。 	B			
		<ul style="list-style-type: none"> ・理解の不十分な生徒には個別指導を実施する。 	B			
	<ul style="list-style-type: none"> ・週末課題を利用し家庭学習の習慣をつけさせる。 	B				
	<ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習に積極的に取り組ませ、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能の習得を図る。 	B				
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望に応じた学力向上を図るとともに、ICT機器の活用習熟に努め、教員の授業力向上を図る。 	B					
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて課外授業を実施し、生徒の進路実現に向けた学力の向上を図る。 	B					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業において「話すこと・聞くこと」および「書くこと」の機会をより充実させて、主体的に表現できる力を養う。 	B					
地歴公民	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路の希望に対応できる学力の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・副教材、プリント学習・小テストの実施による積極的効果的な授業を展開、生徒の主体的な学習を促し学習の習慣化を図る。 ・長期休業中だけでなく、休日課外等で基礎学力の充実とともに問題演習に取り組む。 ・新教育課程に対応した授業内容の研修を進める。 		A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・検定などへのチャレンジ、共通テストなどの問題への対策を推進する。 ・教科の繋がりを、連携強化を目指し、科目間での学びの継続性を工夫する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の社会認識を深めさせ、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を養うために、授業の研究と実践に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを積極的に活用するなど授業の改善と授業力向上に努める。 		B		
	<ul style="list-style-type: none"> ・発問等の工夫により、興味関心を喚起する授業に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて自ら調べ、まとめることを通じて社会の課題を考えるきっかけを与える。 		B		
	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・社会・文化に関する興味や認識を高め、幅広く現代の諸課題を考察できる資質の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科目横断的な内容を通して、幅広く現代の問題点を様々な視点で捉えられるように工夫する。 		B		
	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・社会・文化に関する興味や認識を高め、幅広く現代の諸課題を考察できる資質の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて自ら調べ、まとめることを通じて社会の課題を考えるきっかけを与える。 		B		

数 学	ICT機器を活用し、基礎学力の向上を図るとともに、教員の授業力向上に努める。		・ICT機器を積極的に活用し、小テスト等を通して生徒の理解度を定期的に把握する。	A	B	・学力差、個別の目標に応じた対応による授業満足度の向上。	
	家庭学習の定着に努める。		・理解度の不足する生徒には再指導を実施する。	B			
	基礎学力があり、数学に対して興味関心の高い生徒に対しては、さらに理解度を高める指導をする。		・課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。	B			
	課外を実施し、興味関心を持続させ高いレベルまで到達させる。		・課外を実施し、興味関心を持続させ高いレベルまで到達させる。	A			
理 科	自然科学に対する興味関心を喚起する。		・実験、資料等の活用により授業を展開し、健全な自然観を持たせる。	B	B	・実験及び観察の機会を増やし、学習内容の定着を図る。 ・生徒の実態に応じた学習内容の精選。	
	思考力・判断力・表現力をはぐむ授業を展開する。		・発問等を工夫し興味関心を喚起し、自ら調べまとめる機会を増やすように努める。	B			
	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する。		・校内研修を充実させ、ICTの効果的な活用を含め授業の改善と授業力向上を図る。	B			
	学力の向上に努め、生徒の進路希望実現を図る。		・探究の流れを意識した実験を行う。	B			
			・グループワークを通じ、授業に主体的・協働的に学ぶ姿勢の向上を高める。	B			
保 健 体 育	体力の向上(身体能力)を図る。		・基礎体力の増進のために体力テストの結果等を利用して、主体的に授業に臨ませる。	A	A	・男女比の変化に伴う授業形態の工夫。 ・思考力・判断力・表現力を高めるための工夫。	
	生涯スポーツにつながる、知識や運動の習慣を身に付ける。		・副教材を利用し、各種目のルールや特性等の理解を深め、スポーツのあり方を考えさせ、実践する態度を養う。	B			
	心身の健康の保持増進を図る。		・定期考査を実施し、※ヘルスプロモーションの理念を理解させる。(※自らの健康をコントロールし改善できるようにする活動)	A			
教 科	音 楽	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽の多様性についての理解を深める。		・ICT機器を活用し、適切な題材・教材選択を図り、より積極的に取り組もうとする意欲を高め、魅力ある授業実践を目指す。	A	A	・機材や、使用楽器の更新。
		自己のイメージをもち、創意工夫して表現しようとする意欲を高め、そのために必要な技能の習得を目指す。		・演奏発表の場や対話的な学びを通じて、互いの演奏や音楽表現に対する考え方について理解尊重し、個性豊かな創意工夫ある表現を目指す。	B		
		生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていこうとする態度を養う。		・アンサンブル活動の充実などを通じ、音楽活動の喜びを味わい、感性を高め、日々の生活をより豊かなものとする。	A		
	美 術	造形的な視点を豊かにするための知識と、創造的に表す技能を身に付けさせる。		・基礎演習を効果的に行い、[共通事項]をもとに既習の知識や技能を生かして発展的に学びが深められるよう計画、指導する。	A	A	・教育効果を高めるため、評価についてもICTを活用した授業を実践する。
		表現における発想や構想と、鑑賞における見方や感じ方を深めさせる。		・表現と鑑賞の関連を図り、対話的な学びを通して発想や構想に関する資質・能力を高める指導の工夫を行う。	A		
		主体的に取り組む態度や生涯にわたり美術を愛好する心情、豊かな感性を育む。		・生徒のよさを多様な方法で評価し、主体的な表現への意欲を高めるとともに、学びの意義を実感させる活動の充実を図る。	B		
	書 道	古典学習の意義と基礎技術向上に努める。		・用具用材に対する意識づけを行う。	B	B	・鑑賞の時間を控えてきたが、現地に足を運び直接自分の眼で作品を鑑賞する機会を作っていかなければならない。 ・ICT機器の配備の促進と生徒のタブレット端末等の有効活用を図る。 ・古典の臨書の意義と用具用材に対する理解を徹底させたい。
				・全体指導及び個別指導において書道の基礎的スキルを高める。	B		
				・作品整理ノートやタブレット端末等を十分に活用する。	B		
				・作品提出の徹底を図る。	B		
		・書のよさや美しさを感じ、書の美を味わうことができるようにする。	B				
創作に対する興味を持たせ個性の伸長を図る。		・感性を豊かにするために、書道分野だけでなく美術的内容を取り入れて興味を持たせる。	B				
		・作品を大切にすることを養う。	A				
英 語	基礎学力の向上定着を図るため、授業力向上を目指す。		・小テスト、週末課題の実施により、学習の理解度を把握する。	B	B	・英語に苦手意識を持つ生徒への対応や英語学習への動機付け。 ・英検対策、特に二次試験とGTEC受検後の効果的なデータ活用。 ・生成AIを活用した、英作文指導。	
	外国語の学習を通じて自国の文化や異文化に対する理解を深めさせる。		・テキストや副読本を読むことにより、文化の違いを理解させる。	B			
	自分の考えを積極的に発表しようとする態度を育成する。		・ALTの先生の授業等を通じて、異文化における日本との習慣の違いを学ぶ。	A			
	より高い目標に近づぐために努力させる。		・スピーチコンテストへの参加を積極的に促し、英語を話し理解しようとする態度を養成する。	B			
			・ICTを活用した発表や活動を積極的におこなえるよう、研究・実践する。	B			
家 庭	家庭生活を主体的に営む態度を育てる。		・生活に必要な知識と技術を習得させるための教材を精選し、授業に生かす。	A	A	・実験・実習を精選し、実習環境を整える。 ・ICT機器活用の促進。	
	課題解決力向上のためのコミュニケーション力・プレゼンテーション力を育成する。		・「一日家事体験」や「ホームプロジェクト」等の実践活動を行う。	A			
	多様な進路希望の実現を図る。		・実験実習を数多く導入し、ICT機器を活用したまとめとしてのレポート提出をさせる。また、発表会を行う。	A			
	生徒の安全を確保した実験・実習を実施する。		・家政分野の情報を提供するとともに、将来の進路につながる学習を行う。	A			
			・施設・用具等の管理を徹底し、危険物排除に加え衛生面も含めた安全な実習環境を整える。	A			
情 報	情報活用のための技術の習得に加え、情報社会と人との関わりについて理解を深める。		・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの基本操作を習得する。	A	A	・本年度より導入された共通テスト「情報I」の対策。	
	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。		・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、責任及び情報モラルについて理解する。	A			
			・受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通して、適切かつ効果的な情報デザインを考え、活用する力を養う。	A			
			・プログラミングやシミュレーションによって問題を発見・解決する活動を通して、問題の適切な解決方法を考える。	A			
			・課題学習を通して、自分の考えや意見をまとめ、各自がプレゼンテーション制作を行う中で、情報発信者としての態度を養う。	A			
		・IT化が進むことで暮らしが変化することを前向きに捉え、主体的に取り組む姿勢を養う。	A				

教務	校内研修を充実させ、授業力の向上に努める。	・ICT機器(タブレット)を活用した授業の校内研修を行い、授業の改善と授業力向上を図る。	B	B	・学校・生徒の実態に合ったカリキュラム・マネジメントの実施。 ・生徒の学習改善につながる評価の検討と、教員の授業力向上につながる研修方法の工夫。
	各部、各学年及び各教科が効率的に機能するよう全職員の共通理解を図る。	・教師の指導改善及び生徒の学習改善につながる学習評価を設定し、授業力向上を図る。	B		
	教育課程を円滑に推進する。	・各学年・部・学科の意見・要望を集約しながら資料を共有し、校務の「みえる化」を図る。	B		
	広報活動の推進と充実を図る。	・新学習指導要領への対応と年次進捗で変わる教育課程への円滑な移行を図る。	A		
		・男子生徒積極的募集に向け、中学校や学習塾等へのPR活動の活性化を図る。	A		
特別活動	生徒が主体となってホームルーム活動や生徒会活動、学校行事を行う。	・学校パンフレットやリーフレット等を活用し、本校の教育活動の取り組み状況や成果及び特色等を積極的に情報発信する。	A		
		・学校説明会や学校公開等を通し、本校の教育活動への取り組みを保護者や地域住民へ周知する。	A		
		・自己や集団の課題を見だし、合意形成や意思決定する場をLHR等で設ける。	B		
		・生徒会本部役員や各種委員会が学校行事運営の中心となるよう支援する。	A		
		・体育的行事を実施し、運動に親しむ態度や集団への帰属意識を育む。	A		
	部活動を活性化し、学習との両立を目指す。	・文化的行事を実施し、文化や芸術を親しむ姿勢や創造性、表現力を育む。	A		
		・特別活動における生徒の主体的活動に資するICTの活用法を研究・実践していく。	B		
		・キャリアパスポートの活用法を研究・実践していく。	B		
		・特色選抜入試を実施している部活動を中心に、上位大会への進出を目指す。	B		
		・運動部、文化部ともに部活動入部加入率が40%以上になるように生徒への部活動への積極的な参加を促す。	B		
・部活動の活動方針や内規に記載されている活動時間を守るよう、練習方法の工夫や効率化を図るための支援をする。	B				
生徒指導	生徒が三高生としてのプライドを持ち、自主的にルールを守るよう、自己形成を図る。	・高校生としての基本的生活習慣、規範意識の育成を授業・HRのみならず、学校の諸活動全体の中で自主的に培える援助を行う。	B	B	・教員間の連携をさらに図りながら、指導を行う。 ・通信機器等の正しい使い方および校内使用ルールを徹底させる。 ・不審者やつきまとい被害の未然防止のために、水戸警察署とさらなる連携をはかる。
	教職員間の共通理解を深め、共通の指導体制を構築する。	・教室環境の整備・改善を協力して行うことにより、落ち着いた環境の中で望ましい人間関係の構築をさせていく。	B		
	保護者や外部関係機関との連携による協力関係を構築し、学校以外の視点を指導に活かす。	・年度始めにおける内規・校則等の周知を図るとともに、指導基準・手順等の見直しを必要に応じて行う。	B		
		・生徒の実態把握(被害調査、アルバイト許可、自転車交通関係)を担当・学年と連携して行い、問題行動の防止に努める。	B		
進路指導	生徒の進路希望の実現を図る。	・PTA総会や各学年PTA集会等において、積極的に生徒の実情の報告、意見交換を行い、大人や社会の視点からの指導を行う協力を呼びかける。	B		
		・水戸警察署との連携により、生徒の何気ない身なり・行動でも不審者等の誘因になっていることを知らせ、自己の行動を改めるきっかけにさせる。	B		
		・生徒の進路希望に応じ休日課外・平常課外を計画、実施し、生徒の学力養成をはかる。	B		
	生徒の進路に対する意識の高揚を図る。	・生徒の進路指導室利用を促進し、進路相談の充実を図る。	B		
		・学年・教科との緊密な連携により、生徒の進路希望に応じた推薦入試対策や小論文指導などを検討、調整、実施する。	A		
		・各学年に応じた進路行事(大学見学会、大学模擬授業、進路講演会)を実施し、生徒の意識を高める。	B		
		・インターンシップ(看護師体験など)や様々な社会体験を促し、進路に対する意識を高める。	B		
実態に応じた適切な進路情報を保護者に提供する。	・生徒面談等で分析ソフトやインターネット等を積極的に活用し、効果的かつ効率的な進路指導を図る。	B			
	・定期的な進路希望調査を実施し、生徒の実態把握に努める。	B			
	・進路だよりを通して、進路等における情報等を保護者に提供する。	B			
保健厚生	保健管理指導を徹底し、健やかな心身と生きる力を育成する。	・進路の手引きを作成し、その効果的な活用を進める。	B	B	・環境衛生の維持(クラス教室のカーテンクリーニングorカーテン交換)。 ・防災意識の向上(共助)。 ・カウンセラーに頼らない教育相談の充実。 ・特別支援教育体制の構築。
	環境整備に努め、また、防火管理を徹底する。	・けがの防止に努め、安全を最優先して生活できるように配慮する。	B		
	教育相談を有効に活用し、学校不適應生徒に適切に対応する。 進路希望が実現できるように奨学金等で支援する。	・各種講話、「ほけんだより」等による健康管理予防の啓発に努め、自分の体調について自己管理させる。	A		
		・長寿命化工事できれいになった校舎の清掃面での維持を行う。	B		
	・火災、震災、及びその他の災害への対策を、外部機関とも連携して講じていく。	B			
・スクールカウンセラーや学年・保護者との連携をコーディネートし、生徒の心的問題の解消を支援していく。	A				
図書	図書館の利用を促進し、書籍の管理につとめる。	・様々な奨学金について周知し、必要な生徒に有効利用してもらう。	A		
		・新着図書案内を定期的に発行し、本の利用を促進する。	B		
		・小論文推薦図書資料を職員・生徒に配付し、小論文コーナーの本の利用を促進する。	B		
	館内環境を整え、快適な読書空間と学習の場を提供する。	・各教科の専門的意見を取り入れ、蔵書の内容の充実を図る。	B		
		・館内を常時清潔に保ち、読書や学習する環境を整える。	A		
		・放課後学習のために延長開館し、生徒に継続的な学習習慣を身につけさせる。	A		
		・図書委員会の活性化を図る。	A		
		・カウンター当番・図書館便り・校外の研修会等に積極的に参加させる。	A		
放送委員会の活性化を図る。	・全校行事に伴う放送関係の仕事に積極的に関わらせる。	A			
情報管理	校内LAN(公務・生徒セグメント)の安全性を高めて、利用の促進を図る。	・セキュリティ対策を行い安全性を高めるとともに、個人情報漏洩等のインシデントを予防する。	A	B	・学校ホームページの更新頻度向上と充実。
	情報活用能力や情報モラルの向上を図る。	・共有している情報機器や電子データの維持管理を行う。	A		
		・生徒のBYOD端末の利用を推進し、教職員のICT活用を支援する。	B		
	広報活動に協力する。 迅速・正確な成績処理に努める。	・研修会や動画等とおして、教職員の無線LANおよびGsuiteの有効的な活用を支援する。	B		
		・ウェブページ(ホームページ)を活用し、本校の教育活動の取り組み状況や成果等を積極的に情報発信する。	B		
・統合型校務支援システムの更新、管理を確実にし、生徒の進路実現の一助となる成績データ等の提供を行う。	B				

渉外	PTA総会の保護者の出席率を向上させる。	・日程や授業参観のあり方を工夫する。	A	A	・総会や会議へのオンライン参加の検討。 ・第2回学年PTA会議実施の再考。 ・生徒の活動の様子が見られる演奏や展示の総会での実施。 ・渉外の仕事の内容把握と適切な分担。 ・PTA総会開催までの準備。 ・総会自体の運営効率化。
		・PTA総会の内容を工夫し、効率的運営を図る。	B		
	保護者や地域との緊密な連携を図る。	・PTA各種委員会の活性化を図る。 ・保護者や地域の意見要望を検討しその対応を図るとともに、広報誌やHPなどを通して情報を提供し、理解、協力を得られるように努める。	A A		
音楽科	音楽に関する専門的で多様な内容についての理解を深め、表現意図を音楽で表すために必要な技能を身に付ける。	・音楽科専門教育の内容の精選を図り、ICT機器活用の推進など、主体的・対話的な深い学びを目指す。	A	A	・主体的に音楽に取り組む姿勢を育成し、音楽的な能力の向上を目指す。
		・卒業演奏会やボランティア演奏、各種コンクールへの積極的な参加など、様々な演奏披露の場を通じて、知識及び技能の習得と音楽文化を発展に寄与する態度を養う。	B		
	・定期的に公開レッスンを実施し、意欲を高め、資質能力の向上を目指す。	A			
	・オペラ鑑賞会など鑑賞する機会を積極的に設け、音楽的な見方考え方を働かせ、より主体的に教育活動に取り組もうとする意欲を養う。	A			
	将来音楽の様々な場面で活躍できる人材を育成するため、特色ある教育活動を展開し、志望する進路実現と安定した生徒募集を目指す。	・HPの充実や中学校訪問など広報活動を積極的に行い、音楽科の教育内容や生徒の活躍の様子について知ってもらい、安定した志願者の確保につなげる。 ・地域と積極的な連携を図り、生徒の希望に応じた計画的で、きめ細かいキャリア教育を行う。	A A		
家政科	活躍の場を広げるために様々な活動への積極的な参加を図り、主体的な実践力育成に努める。	・生徒の企画・運営によるファッションショーを実施する。	A	A	・家政科の学びを自ら深めようと行動する生徒の育成。 ・課題研究の指導方法についての研修を深める。
		・課題研究発表会や茨高教研家庭部学科等主任会開催の探究活動発表会において日頃の成果を発表する。	A		
		・各種コンクール(被服関係・食物関係・保育関係・生活産業に関するもの)への参加を促す。	B		
	・家庭クラブにおいて訪問活動やものづくり活動、さらに県連行事への参加を継続し活動の充実を図る。	A			
	生徒の技術向上を図り、専門性の高い授業展開に努める。	・全国高等学校家庭科技術検定に取り組み、技術向上を図る。 ・各分野の専門家による出張授業を実施する。	A A		
	進路指導の充実に努める。	・家政分野のリーダー育成となり得る進路指導を計画的に実施する。 ・HPでの広報活動等により家政科周知を行い、関心の高い生徒募集を図る。	B A		
1学年	基本的な生活習慣を確立させ、集団生活のマナーを身につけさせる。	・挨拶を励行し、適切な言葉遣いを身につけさせる。	A	B	・ICT教材の効果的な活用の検討。 ・進路活動及びHR活動の時間の確保、進路選択を検討する時間の増加。 ・より積極的に進路探求に向かう姿勢の醸成。 ・学習意欲を高め、学習習慣の確立及び個に応じた学習のあり方の検討。 ・学校生活に困難を抱える生徒の対応について、学校以外の機関も交えた情報交換やケーススタディを行う。
		・遅刻の防止、時間厳守を徹底する。	B		
	学習習慣を確立し、基礎学力を確実に身につけさせる。	・机上の整理や清掃の徹底を行い、学習環境を整備する。	B		
		・授業開始時間の厳守など、授業を大切に作る姿勢を持たせる。	B		
		・予習復習を習慣化させ、家庭学習時間を確保させる。	B		
	自己の可能性を探りながら卒業後の進路についての目的意識をもたせ、適切な文理選択および進路選択ができるように指導する。	・授業に対して主体的に取り組ませ、タブレットの活用を推進させる。	A		
		・自己の適性を把握させ、進路に関する情報を収集させると共に、保護者に対しても情報を発信し、理解を求める。	B		
・生徒との面談や保護者との面談を通して信頼関係を築き、適切な進路助言を行う。		B			
特別活動への積極的な参加を促す。	・進路ガイダンスや進路講演会を実施し、積極的にオープンキャンパスや模擬授業等を体験させる。 ・部活動・生徒会への積極的な参加を促す。	B B			
2学年	安定した生活習慣を基本とし、中核学年としての自覚を持たせ、集団生活を営むためのマナーを向上させる。	・挨拶の励行を継続し、TPOに応じた言葉遣いと服装、周囲のことを考えた行動ができるよう生徒の自覚を高める。	B	B	・生徒自身の内面の成長を促し、より良い人間関係が構築できるようにする。 ・進路活動に対する意識づけを強化し、修学旅行後の気持ちの切替を速やかに行えるようにする。 ・生徒の問題行動に対して、学年全体として対応する。
		・スマートフォンやタブレット等の適切な利用を含めて、生活面での中だるみを防止する指導に努める。	B		
	授業を中心とした予習・復習の学習習慣を確立し、基礎学力から探究的な学習につながる学力を確実に身につけさせる。	・修学旅行も視野に入れながら、他者への思いやりに基づいた集団行動が着実にできるよう、見渡す力の形成及び自己管理能力向上の指導に努める。	B		
		・教材や指導法を工夫し、授業を大切にし、主体的、対話的に取り組む授業展開に努める。	B		
	社会や地域との関わりを意識しながら、自己の可能性や適性を最大限に生かす科目選択・進路選択ができるように指導する。	・総合的な探究の学習も含め、予習・復習を習慣化させ、効率的に家庭学習時間を実施するように努める。	B		
		・ICT等を活用しながら、個に応じた指導を実施し、基礎学力の定着を図る。	B		
特別活動への積極的な参加を促す。	・面談等を通じ、自己の適性を把握し、進路に関する情報を収集させ、共通テストや採用試験に向けての対策を図る。 ・進路講演会やガイダンス等を通して進路に関する情報を提供し、進路意識を高める指導に努める。 ・各種講習会や公開講座等への積極的な参加を促し、進路実現のためのキャリアアップを図る。	B B B			
3学年	安定した生活習慣を徹底し、最高学年としての自覚に基づく円滑な集団生活を営ませる。	・部活動や学校行事の中心的存在として模範的な態度の育成及び自覚ある活動を促す。	B	B	・早期からの進路意識の向上、進路実現に向けての学習習慣の確立・学力向上のための指導を共有する。
		・挨拶の励行や時間厳守を継続し、感謝に根ざした行動ができるよう自覚の深化を促す。	B		
		・スマホやタブレット等の利用、制服の着こなしおよび言葉遣いを適切に行えるよう指導に努める。	B		
	授業を中心とした予習・復習の学習習慣の上に、進路実現学力を身につけさせる。	・最高学年として他者への思い遣りに基づく集団行動ができるよう、自己管理能力向上に努める。	B		
		・朝学習も含め授業開始時間に学習体制を整えることを通じ、時間管理を徹底させる。	A		
	3年間の集大成として、自己の可能性や適性を生かす進路選択を行い、一人一人の進路目標達成を支援する。	・「団体戦」の意識を喚起し、授業に対して主体的・対話的・協働的に取り組ませることで学力を伸ばす。	B		
		・進路志望に応じた、適切な課外指導の充実を図る。	B		
		・適時適宜な面談等を行い、自己の適性と適切な進路情報に基づいた、採用試験や各種入試に向けての対策を充実させる。	B		
特別活動への積極的な参加を促す。	・進路講演会やガイダンス等を通して進路に関する情報を提供し、高い志を維持しうる指導に務める。	B			
	・各種講習会や公開講座・検定試験等への積極的な参加を促し、進路実現のためのキャリアアップにも挑戦させる。	B			
	・面接指導や小論文指導などについて、職員全体の協力を要請する。	A			
	・これまでの経験を生かし模範として活動するとともに、後進育成の観点をもって臨ませる。	B			

評価基準:A(達成できた)、B(だいたい達成できた)、C(達成できなかった)の3段階